

助成決定事業の実施内容及び成果に関する報告書

助成事業名

南西諸島における雑穀類の遺伝資源の保全と 農耕文化の継承に関する研究

(1) 実施内容及び成果

2019年から先島諸島を中心として遺伝資源収集と農耕文化について聞き取り調査を実施した。栽培経験者が高齢になっており聞き取り調査ができる期限が迫ってきているのが現状である。伊良部島佐良浜地域では現在でもアワ栽培を続けている農家が2軒あり、栽培者が中心となって農耕祭祀儀礼も継続されていた。八重山諸島では、小規模ながらも祭祀用に栽培を継続している農家が3軒。また、共同研究者の大阪学院大学竹井恵美子教授らが収集した、モチキビを増殖に成功し、収集元地域に返還することができた。収集した雑穀類は、神奈川県厚木市の圃場で増殖し生育特性データを収集・増殖後先島諸島の栽培協力者や宮古総合実業高等学校などの協力を得て、聞き取り調査から得られた栽培歴を参考に栽培に取り組んだ。栽培を継続させることで、地域の農耕祭祀儀礼の位置づけの再確認があった。収集品は、アワ8点、キビ1点、ダイズ1点、ササゲ3点であった。

(2) 今後予想される効果

本研究では、先島諸島に残存している、地方在来雑穀類を収集や返還を通して地域での復活栽培や農耕祭祀儀礼に供納することに寄与できた。実際に、宮古総合実業高等学校と共同で栽培技術の検討を行ってきたが、昔の栽培歴での栽培は難しく、検討を重ね栽培技術の確立につなげることが期待したい。

一部の地方在来雑穀類種子を、東京農業大学宮古亜熱帯農場に分譲し増殖保存を実施している。教育的利用や地域の生きた文化財として継承できるように、東京農業大学宮古亜熱帯農場を核として、琉球弧ローカルシードバンク計画も進行している。また、植物標本作製し、博物館資料として活用される予定である。

収集された遺伝資源を、さらなる研究や永続的に適切な環境下で保存するには公的機関である、NARO ジーンバンク等の遺伝資源配布機関へ預託を予定している。該当植物などの権利化、知的財産の設定を行わず、公的な遺伝資源（パブリックドメイン）として扱うこととする。